

ご挨拶

「第18回 日本小児医学教育研究会開催にあたって」

このたび、第17回に引き続き、第18回（平成30年）の本研究会を担当させて頂く事になりました。会長にご指名頂きましたことを光栄に感じます。

本研究会は当時日本小児科学会会長であった衛藤義勝先生（東京慈恵会医科大学名誉教授）が代表幹事となり2000年に設立されました。以来18年の間に、わが国の医学教育制度は大きく変貌しました。卒前教育においては、CBTやOSCEの導入、卒後教育においては、初期研修（2年間）の必修化（2004年）や後期研修における新専門医制度の導入（2018年）など、想像もしなかった制度改革が行われました。その結果、旧来の卒前・卒後教育を受けて育った私どもの世代（現在40-50代）の指導者たちには大きな戸惑いが生じました。したがって、「優秀な小児科医育成のために教育体制・教育方法の確立を目指して指導者たちが勉強する」ことを目的に設立された本研究会の重要性や存在意義は以前にも増して高まっています。

そういった状況を踏まえ、今年の第17回の本研究会のテーマを「ようこそ小児科へ！～魅力ある卒前小児科臨床教育を目指して～」としました。そして今年はその続編として「ようこそ小児科へ！～魅力ある卒後小児科研修を目指して～」というテーマにさせていただきました。今年度から新専門医制度がスタートし、小児科専門医の育成システムは充実してきましたが、実際に指導を担当する小児科医の教育技能・意識も同時に高まっているとは思えません。そこで今年の研究会では、卒後の小児科臨床教育について勉強したいと考えています。

年末のお忙しい時期の開催で恐縮ですが、初期研修医、専攻医に小児科の魅力を伝えるための方策を議論する機会としたいと考えておりますので少しでも多くの先生方にご参加をいただきたく、お願い申し上げ、ご挨拶の言葉を締めたいと思います。

金子 一成

（関西医科大学小児科学教室 主任教授）